



政治専攻「演習1」
第1期第1次募集



【目次】

1. 募集について	1 頁
2. 募集に関する注意事項	2 頁
3. 選考方法	3 頁
4. ゼミ内容	5 頁
➤ 稲垣 浩先生	5 頁
➤ 上神 貴佳 先生	6 頁
➤ 小原 薫 先生	7 頁
➤ 菊田 真司 先生	8 頁
➤ 坂本 一登 先生	9 頁
➤ 佐藤 俊輔 先生	10 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	11 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	12 頁
➤ 宮下 大志 先生	13 頁
➤ 羅 芝賢 先生	14 頁

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 期 第 1 次 募 集	
応 募 期 間	2023年10月6日（金）正午～10月20日（金）12時50分
選 考 期 間	2023年10月21日（土）～10月27日（金）
合 否 発 表	2023年10月28日（土）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集の実施は第1期第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 1 期 第 2 次 募 集	
応 募 期 間	2023年10月30日（月）正午～11月7日（火）12時50分
選 考 期 間	2023年11月8日（水）～11月13日（月）
合 否 発 表	2023年11月14日（火）20時予定 K-SMAPYIIにて

※第1期第2次募集において、全1年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第1期第3次募集を行います。

【応募方法】

K-SMAPYII より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPYIIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYIIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPYIIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPYIIから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2つ目のゼミを希望する場合には11月に行われる**第2期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
稲垣 浩	レポート	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp 10月20日（金）12時50分	①最近気になった自治体行政に関する話題 ②本ゼミへの志望動機	（書式）A4用紙 （40字×36行） （字数） 題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
	面接	10月26日（木） 13時00分～	若木タワー8階0807研究室	
上神 貴佳	レポート	K-SMAPY II アンケート画面で回答 10月20日（金）12時50分	本演習を志望する理由 （メールアドレスを記入すること）	（書式）自由 （字数）1,000字
	面接	10月23日（月） 17時00分～17時30分	オンライン	
小原 薫	レポート	面接時持参	最近関心のある政治、社会の問題と、小原ゼミへの志望理由	（書式）自由 （字数）600～800字
	面接	10月24日（火） 12時00分～	若木タワー8階0801研究室	
菊田 真司	レポート	面接時持参	自己紹介とゼミの志望理由	（書式）A4 （字数）1,000字程度
	面接	10月27日（金） 12時10分～	若木タワー7階0712研究室	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 10月20日（金）12時30分	志望理由と最近の気になる政治的出来事	（書式）自由 （字数）1,000字程度
	面接	10月23日（月） 16時15分～17時00分	若木タワー7階0705研究室	

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
佐藤 俊輔	レポート	メール送付 s.sato@kokugakuin.ac.jp 10月20日（金）12時50分	①演習への志望動機 ②関心を持っている国際関係上の事象・主題について	（書式）A4・横書き Word ファイル形式 （字数）1,200字以上
芝崎 祐典	レポート	面接時持参	(1)ゼミ志望理由 (2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと	（書式）Word （字数）800～1,000字
	面接	10月26日（木） 18時00分～	3310教室 ※10月19日（木）追記	
藤嶋 亮	レポート	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp 10月20日（金）12時50分	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題について	（書式）自由 （字数）それぞれ400字程度 計1,200字 <u>必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください</u>
	面接	10月24日（火） 13時00分～16時30分	オンライン	
宮下 大志	レポート	メール送付 miyashita@kokugakuin.ac.jp 10月25日（水）15時00分	現在の日本の政治をどう評価するか	（書式）自由 ただしWordファイルかPagesファイルでメール添付提出 （字数）1,200字
	面接	10月26日（木） 14時40分～	若木タワー8階0810研究室集合	
羅 芝賢	レポート	メール送付 j-na@kokugakuin.ac.jp 10月20日（金）12時50分	①これまで読んだ政治・行政に関する本の中で、最も興味深かったものとその理由 ②ゼミ志望理由	（書式）A4・Word （字数）800～1,000字

[【目次に戻る】](#)

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治・地域社会の動態分析
演習内容	<p>このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2023年度は多文化共生をテーマに、外国人住民への自治体の対応などに関する文献の講読を行ってきました。また、自治体の多文化共生担当部局へのヒアリング調査、札幌市や小樽市、余市町など北海道でのまちづくりについての現地調査などをしたほか、新宿区大久保地区、横浜市いちよう団地などでの学生によるまちあるき、他大学との合同調査など、全国の「現場」での学びも大切にしています。</p> <p>2024年度も、2023年度と同様、前期は全員で行政・地方自治に関する図書や論文を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A4用紙1枚程度）の提出、ディスカッション、グループ調査を行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿なども行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビュー、合同ゼミ調査などを可能な範囲で行う予定です。</p> <p>フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションや主体的な相互協力ができる学生を求めます。</p> <p>課題レポートには、取り上げる自治体行政に関する話題が「なぜ」気になり、それに対してどのように考えたのか、応募者のプライバシーや個人情報を過度に犠牲・露出しない程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。</p>
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	<p>中野邦彦・本田正美（2021）『地域研究ハンドブック』勁草書房 磯崎・金井・伊藤（2020）『ホーンブック地方自治（新版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など</p>
備考	<p>上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献です（講読する文献とは限りません）。</p> <p>選考は応募していただいたレポートと面接によって行います。面接は、基本的に10月26日（木）に対面で行いますが、募集締め切り後に応募者とメールで都合を調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	上神 貴佳
演習テーマ	歴史としての平成と日本政治
演習内容	<p>平成も約30年をもって、令和という新たな時代を迎えることになった。歴史としての平成一をどのようにとらえればよいのだろうか。とくに昭和との関連で平成の政治や経済、社会の課題を理解することを試みつつ、次の時代を展望してみたい。</p> <p>近年、平成一を振り返るさまざまな書籍が出版されている。本演習の教科書としては、小熊編（2019年）などを用いることにする。教科書の読破は、受講生に求められる最低限の課題である。複数のテキストを読み比べつつ、本演習のテーマ（歴史としての平成と日本政治）について、自分なりの理解を得られるように、各自が学習を進めてもらいたい。</p> <p>本演習の進め方については、グループに分かれて、報告班と質問班を交互に担当することを想定している。また、いずれの担当になるかによらず、毎回、参加者全員がレジュメを提出する。演習の最後には、各自が本演習のテーマに沿って、レポートを作成して提出してもらう。</p>
教科書	小熊英二（編）『平成史【完全版】』河出書房新社，2019年。
参考文献	薬師寺克行『現代日本政治史』有斐閣，2014年。 佐藤優・片山杜秀『平成史』小学館，2018年。 など
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治の思想と問題
演習内容	<p>今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。ウクライナ問題、毎年続く気候変動の弊害、安全保障、そして、2025年問題も大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想・構造を含めて議論をしていく。</p> <p>前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。</p> <p>無断欠席は認めない。レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。</p>
教科書	
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	菊田 真司
演習テーマ	「能力主義」を考える
演習内容	<p>競争に関する平等を議論する場合に、「機会の平等」と「結果の平等」という考え方があります。この考え方を講義で説明すると、「結果の平等」よりも「機会の平等」の方がより重要であると答える人がかなりいます。その理由は、人間の生まれながらの能力の違いによる扱いの差異は正当な区別であり、「機会の平等」が実現すれば、その人が本来持っている能力を正当に評価することができるからだ、ということのようです。しかし、それは本当でしょうか？その人の「生まれながらの能力」とは何で、それはどのようにすれば「正当に評価」することができるのでしょうか？</p> <p>能力に基づいて、人間の扱い方の違いを肯定する考え方を能力主義(メリットクラシー)といいます。簡単に言えば、能力の高い人が高い評価を受け、能力の低い人が低い評価を受け、それに応じた報酬(入学資格とか所得とか)を得ることは正当だ、という考え方です。しかし、現代の政治哲学者の多くは、この考え方に否定的です。それはなぜでしょうか？</p> <p>今年度の演習では、みなさんになじみの深い教育の問題を出発点に、能力主義という考え方が持つ問題点を検討します。その上で、能力主義が正当なものとして考えられることによって、個人や社会にどのような影響が及ぶのかを考えていくことにします。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。演習参加者は、これに加えて、自分の好きなテーマについて論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。論文は、基本的に演習時間外に執筆してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
教科書	<p>松岡亮二、『教育格差』、ちくま新書、2019年 リチャード・ウィルキンソン、ケイト・ピケット、『格差は心を壊す 比較という呪縛』、東洋経済新報社、2020年 マイケル・サンデル、『実力も運のうち 能力主義は正義か』、早川書房、2021年</p>
参考文献	<p>本田由紀、『教育は何を評価してきたのか』、岩波新書、2020年 中村高康、『暴走する能力主義』、ちくま新書、2018年など</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・面接当日に都合が悪くなった場合には、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで申し出てください。質問もこちらのアドレスまで。 ・「政治哲学入門」を履修済み・履修中・履修予定であることが望ましいです。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦後日本の安全保障
演習内容	<p>近年、日本の安全保障をめぐって、関心が高まっている。また、ウクライナ戦争によって、戦争というものが過去の遺物ではなく、改めて現代でも起きうるものであることが明らかになった。それでは、戦後の日本は、安全保障について、どのように考え、どのような対応してきたのだろうか。まず、戦後政治のなかで、憲法9条をふまえて、安全保障がどのように議論され、あるいは議論されてこなかったかを概観したい。つぎに、戦後日本の安全保障に深く関係する日米安保条約と、安保条約の実務規定である「日米地位協定」について、その功罪を考える。最後に、東アジアにおける最大の脅威となっている中国の行動原理について、中国の内側からその対外ルールを考察し、内在的理解を深めたい。以上、戦後日本の安全保障について、日本の戦後政治という歴史的な文脈を縦軸に、アメリカと中国という国際的文脈を横軸に、立体的に分析することを通して、今後の世界を展望することを目標とする。</p> <p>前期は文献講読（各回報告者1名担当）、後期はゼミ論の作成。無断欠席、厳禁。前期の報告と後期のゼミ論作成が、単位取得の必要条件である。</p>
教科書	<p>境家 史郎：戦後日本政治史-占領期から「ネオ55年体制」まで（中公新書） 千々和 泰明：戦後日本の安全保障-日米同盟、憲法9条からNSCまで（中公新書） 山本 章子：日米地位協定-在日米軍と「同盟」の70年（中公新書） 益尾 知佐子：中国の行動原理-国内潮流が決める国際関係（中公新書）</p>
参考文献	
備考	<p>指定された時間外に、面接希望の人は、個別にメールにて連絡してください (kazutos@kokugakuin.ac.jp)</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 俊輔
演習テーマ	国際秩序の変動とその行方
演習内容	<p>この演習では、大きく3つのことを行います。ひとつは、演習全体のテーマに沿った文献の輪読と討議です。演習で用いる文献は毎年変化するものの、その一貫した主題となっているのは、「現代の国際秩序とその変化」についての考察です。例えばグローバル・サウスの存在感の高まりということが言われるようになる中、近年はリベラルな国際秩序の揺らぎということが議論されてきました。本演習では、抽象的なレベルではそのようなりベラルな国際秩序の揺らぎやグローバル・サウスの高まりということを主題としたり、より具体的なレベルではヨーロッパの国際政治や、ロシア・ウクライナ戦争等を主題とするなどしてゼミでの議論を行います。</p> <p>もうひとつは、班に分かれての共同研究です。これは、各人の問題関心を出してもらったうえで、ある程度問題意識の近い参加者同士でテーマを選び、研究・発表をしてもらうものです。令和5年度には、ロシア・ウクライナ戦争、エネルギー、台湾、アジアの安全保障などがその主題となりました。</p> <p>三つめは、個々人の問題関心による演習論文の執筆です。演習論文は一年を通して完成させますが、まず前期の間に問題意識を発表してもらい、後期にはより完成した形での途中報告を行います。参加者から相互にフィードバックを得ながら、後期の終了時までには自分の問題意識に即した論文の完成を目指してもらいます。そのテーマは必ずしも演習全体のテーマに合わせる必要はなく、地域的にもヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカなど多様であり得ますし、経済、環境、人権やSDGsのような主題を考えて頂いて構いません。</p>
教科書	特になし。
参考文献	<p>現在予定している文献は以下。（開講時に他の文献を挙げることもあります。）</p> <p>森聡編著『国際秩序が揺らぐとき—歴史・理論・国際法からみる変容』千倉書房、2023年</p> <p>広瀬佳一『現代ヨーロッパの国際政治』法律文化社、2023年</p> <p>黛秋津編『講義 ウクライナの歴史』山川出版社、2023年 など</p>
備考	<p>文献については、原則としてそれぞれの書籍から論文を抜粋したものを輪読する形をとりますが、学期毎に1冊ほどは購入して頂くことが必要となります。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>芝崎 祐典</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>国際関係論／国際関係史</p>
<p>演習内容</p>	<p>前期は国際関係論や国際関係史に関する文献を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。</p> <p>輪読する文献は年度によって異なりますが、政治、経済、文化、環境などを歴史的視座から論じたものの中から選んでいます。</p> <p>後期は参加者各自が設定した個人研究テーマについての発表や、各自で選択した文献に基づいた報告を中心に行います。個人研究テーマ設定は前期に扱う共通テーマの範囲内である必要はなく、広く国際関係論や国際関係史のなかから関心のあるトピックを自由に探してもらいます。これについて各自がリサーチし、年度の最終に各自の研究テーマをゼミ論（研究論文）にまとめて提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方になどの方法論について随時指導します。</p> <p>（参加人数によっては、後期も文献に基づいた討議を行います。）</p> <p>演習の無断欠席は認めません。</p> <p>ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを Word で作成して面接時に持参してください。 (1) ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。</p>
<p>教科書</p>	<p>開講時にご案内します。</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p>備考</p>	

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>藤嶋 亮</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>ナショナリズムの現在・過去・未来</p>
<p>演習内容</p>	<p>「グローバル化」の時代といわれる今日においても、ナショナリズムは弱まる気配はなく、むしろその影響力を増しているように見られます。また、ナショナリズムは、日常生活での情緒・感情と結びついた現象（スポーツでの代表チームの応援など）であると同時に、国際政治を左右するような高度な原理という多面的な性格を持ち、そのあらわれ方も時代や地域によって大きく異なります。本演習では、主に政治現象としてのナショナリズムに焦点を合わせ、その歴史の変遷や多様なあり方、今後の展望などについて考察してみたいと思います。授業の進め方としては、前期はナショナリズムをテーマとした必読の新書・概説書、後期はナショナリズム論の古典的文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。</p>
<p>教科書</p>	<p>塩川伸明『民族とネーション』（岩波新書、2008年）、藤原帰一『戦争を記憶する』（講談社現代新書、2001年）、オリヴァー・ジマー『ナショナリズム 1890-1940』（岩波書店、2009年）など。</p>
<p>参考文献</p>	<p>授業の中で適宜紹介します。</p>
<p>備考</p>	<p></p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	宮下 大志
演習テーマ	「日本の政治、日本の民主主義、そして日本の未来、どうしたらいい？」
演習内容	<p>日本の政治、日本の民主主義、そしてこれからの日本のあり方について論じてみたいと思います。</p> <p>あなたは、現在の日本の政治、そして（ちょっと抽象的になってしまいますが）日本の民主主義についてどう思っているでしょうか？</p> <p>また社会の状況としても、格差問題、女性の権利の問題などをどうするべきか、問いかけられている状況ではないかと思いますが、どう考えますか？</p> <p>どちらについても、人によって評価はさまざまでしょう。それが現状だと思います。</p> <p>そこで来年度のゼミでは、この日本の政治・民主主義さらには日本の社会について、多様な意見を持った人に集まってもらい、どう評価すべきか、今後はどうなるのが望ましいかなどを論じてゆきたいと思います。</p> <p>そしてそのために、過去の日本の政治を検討したり、現在の問題点を考えたり、今後のあるべき姿を議論したり、ということをおこなう予定です。</p> <p>そしてその際には、多少は欧米との比較や理論的考察も盛り込めたら、とも考えています。</p> <p>なお、応募者は、「<u>現在の日本の政治をどう評価するか</u>」というテーマで、自分なりの評価を記したレポートを期日までにメール添付で提出してください。もちろん、あなたの政治的指向性で判断するわけではなく、「どれだけ考えているか」を見たいのです。その際、必ずメール本文に応募者の氏名を明記してください。</p>
教科書	開講時に指定します
参考文献	必要に応じて紹介します
備考	<p>面接は、対面での面接としたいと思います。個別面接ですので、全体としては10/26（木）の14:40開始ですが、その時間に集合していただいた上で、個人個人の面接時刻を指定します。</p> <p>面接の日時にどうしても都合がつかない、あるいは面接開始時間を配慮してほしい（「15:15には大学を出なければならないのでその前に設定してほしい」など）場合にはメールで早めに知らせてください。メールでのやりとりで相談させていただきます。</p> <p>なお、面接は一人15分ほどを予定しています。ですので、応募者が例年になく多くならない限り、当日の対面での面接は遅くとも16時には最後の面接を終えられるかと思っています。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>羅 芝賢</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>現代日本行政</p>
<p>演習内容</p>	<p>今年度は行政の専門性に着目します。行政サービスの拡大とともに専門性を高めてきたとされる行政組織は、実は必ずしも専門家の育成にはつながらない人事制度を採用していたり、高い専門性を必要とする業務を非正規化していたり、不確実性のリスクに対応するために行政の外部の専門家へと責任を転化したりします。そうしたことがなぜ起きているのかについて、文献の購読を通じて理解を深めていきます。</p> <p>前期は、文献輪読を通じて、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、ゼミ論文の完成を目指して研究を行い、論文報告会を開催します。</p>
<p>教科書</p>	<p>藤田由紀子（2008）『公務員制度と専門性』専修大学出版局 上林陽治（2021）『非正規公務員のリアル—欺瞞の会計年度任用職員』日本評論社 牧原出・坂上博（2023）『きしむ政治と科学—コロナ禍、尾身茂氏との対話』中央公論新社</p>
<p>参考文献</p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p>備考</p>	<p>資料収集の仕方を学ぶため、国会図書館や公文書館への「遠足」も予定しています。</p>